

旭有機材



旭有機材 環境・安全報告書

2014

旭有機材グループ理念

基本理念

私たち、旭有機材グループは、「挑む・創る・変える」の改革精神で新たな価値を創造・提供し、人びとの豊かなくらしに貢献します。

経営理念

人が主役です

人を大切にし、働きがいのある会社づくりをめざします。

お客様の信頼が命です

お客様、取引先、株主、地域の皆様に満足していただける商品・サービスと適切な情報を提供し、信頼を高め、高収益の会社をめざします。

技術がキラリと光ります

独自の技術で常に新しい分野に挑戦し、スピーディーにイノベティブな商品開発をめざします。

世界に挑戦します

国際社会に通用する商品開発力とマーケティング戦略により、グローバルな事業展開をめざします。

安全衛生・環境保全は使命です

安全衛生活動を積極的に推進するとともに、環境に優しい商品の開発と、環境に配慮した生産をめざします。

法と社会規範を守り、社会と共に歩みます

倫理性の高い企業活動と、良き企業市民をめざします。



化学をキーテクノロジーとする当社にとって、「地球環境の保全」は重要な使命です。当社は、生産・物流のすべての過程において、化学物質の管理や環境保全活動に最大限の努力を払うとともに、独自の技術を活かしてフロンを全く使わない現場発泡断熱材を世界で初めて製品化するなど、積極的に「地球環境の保全」に取り組んでいます。

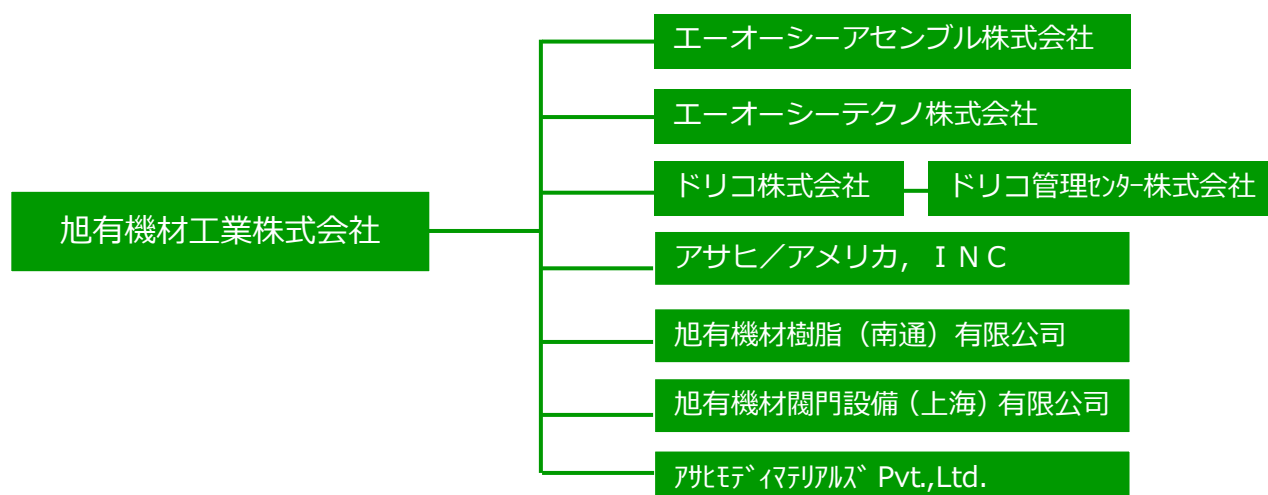
また、安全確保も重要な使命と捉えております。安全とは、「想定されるあらゆる危険リスクを最大限に回避している最高の状態」のことです。ひとりひとりがプライドをもって、徹底的にひとつひとつのルールを守り、これらの使命を果たしてまいります。

これからも変わらぬ皆様のご指導・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

旭有機材工業株式会社
代表取締役社長 藤原 孝二

＜グループ会社との連携＞

この環境・安全報告書は、以下のグループ会社を対象範囲として作成されています。



CONTENTS

旭有機材グループ理念

トップメッセージ

1. 旭有機材グループについて 4

会社概要

事業概要

旭有機材グループ国内拠点

旭有機材グループ海外拠点

2. 環境・安全への取り組み 6

環境・安全方針

環境・安全に関する重点課題

環境・安全の社内推進体制

環境安全大会

3. 環境・安全活動実績 8

環境・安全活動の目標と達成状況（旭有機材 単独）

産業廃棄物の削減と有効利用

貨物輸送エネルギー使用原単位の削減

電気・熱・貨物輸送エネルギー期限CO₂排出量の削減

指定化学物質の移動量・排出量の削減（P R T R法）

P R T R法による化学物質の適正管理

P C B廃棄物の適正管理および処理

4. 労働安全衛生と社員の健康 11

旭有機材グループの労働災害発生件数

旭有機材グループのメンタルヘルス活動

経営者による査察、専門スタッフによる監査（国内全工場）

5. 品質管理・製品安全への取り組み 13

製品安全に関する基本方針

内部品質監査によるチェック

6. 地域・社会への貢献 14

講師派遣による講演会実施

インターンシップ受け入れ

工場見学の実施

第7回「ゆうきの森」植樹活動

1. 旭有機材グループについて ①

<会社概要>

商 号	旭有機材工業株式会社
本社所在地	延岡本社：宮崎県延岡市中の瀬町二丁目 5955 番地 東京本社：東京都港区浜松町二丁目 4 番 1 号 世界貿易センタービル 20 階
設 立	昭和 20 年 3 月 12 日
資 本 金	50 億 10 万円
売 上 高	380 億 5,700 万円（連結） 2013 年度
営 業 利 益	11 億 7,200 万円（連結） 2013 年度
社 員 数	1,190 人（連結） 2014 年 3 月 31 日現在
代 表 者	代表取締役社長 藤原孝二

<事業概要>

管材システム事業

<合成樹脂製配管材料>

ASAHI AV

軽量かつ耐食・耐薬品性に優れ、工場、上下水道・農業灌漑施設、栽培漁業施設、水族館などで使われています。

合成樹脂製バルブ



<IT 装置・液晶向け材料> **Dymatrix™**

開閉耐久に優れ、ストレートな流路を特長とし、半導体製造用などのウェットプロセスを通る流体用配管に使用されています。



ダイマトリックスバルブ



<エンジニアリング>

配管の設計・施工に加え、酸・アルカリに強い P P 製塔・槽類も製作しています。



PP 製タンク

樹 脂 事 業

<鑄造用材料>

当社製フェノールレジンと砂を混練し、鑄物製造用砂型用途のレジンコーテッドサンドを製造しています。



フェノールレジン

レジンコーテッドサンド



<高機能材料>

フェノール樹脂の特性を活かして、電子材料用レジンや、自動車部品用途の成形材料を製造しています。



電子材料用レジン

成形材料を使用した成型品



<発泡材料>

ノンフロン高断熱発泡剤やトンネル掘削時崩落防止固結発泡剤「AGSR」を製造しています。



ゼロフロン



AGSR

水処理・資源開発事業

<水処理関連>

上下水道施設、商業ビルなどから出る排水を回収・処理し再利用する中水用施設、産業用水・排水処理施設の設計・施工、ならびに維持管理などトータルサービスを行っています。



上水施設

羽田空港第 1 旅客ターミナル
(中水再利用設備)



浄水電解殺菌装置



<資源開発関連>

地熱発電用蒸気井、天然ガス井などの掘削や温泉の掘削から排水処理・維持管理までトータルプロデュースを行っています。



温泉井掘削



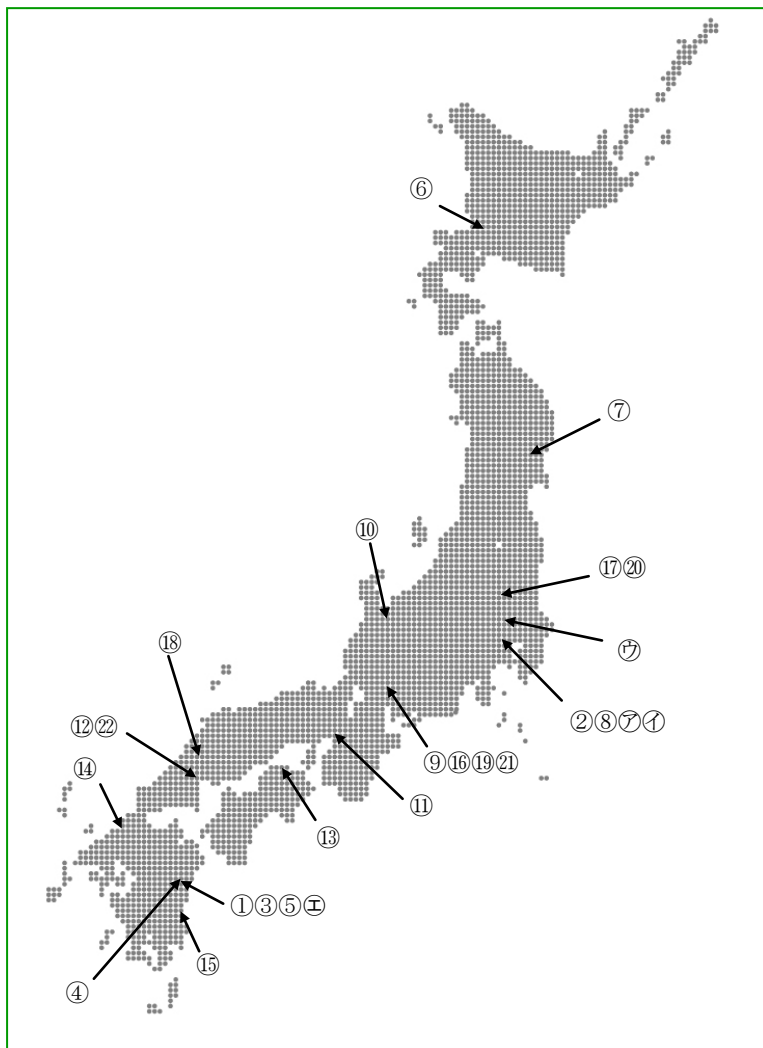
地熱発電用蒸気井

1. 旭有機材グループについて ②

<旭有機材グループ国内拠点>

本 社	1	延岡本社
	2	東京本社
管 材 シ ス テ ム 事 業	3	管材製造所
	4	あもり 天下 テクノセンター
	5	延岡研究所
	6	札幌営業所
	7	仙台営業所
	8	東京営業所
	9	名古屋営業所
	10	北陸営業所
	11	大阪営業所
	12	広島営業所
樹 脂 事 業	13	高松営業所
	14	福岡営業所
	15	南九州営業所
	16	愛知工場
	17	栃木工場
	18	広島工場
	19	愛知研究所
	20	東日本グループ
	21	中日本グループ
	22	西日本グループ

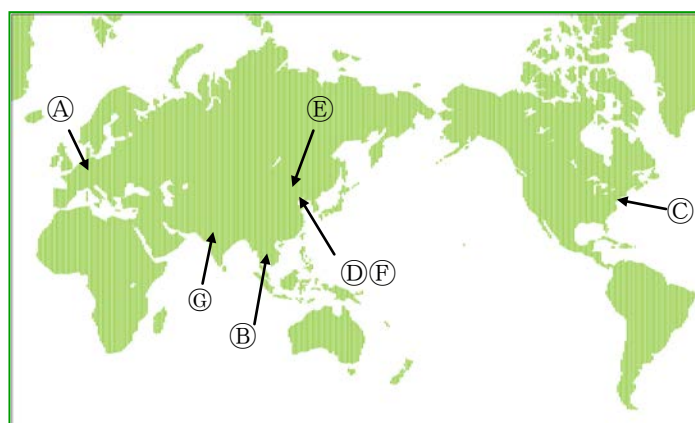
国内子会社	
㊦	旭有機材商事株式会社
㊧	ドリコ株式会社(ドリ管理センター株式会社)
㊨	エーオーシーテクノ株式会社
㊩	エーオーシーアセンブル株式会社



<旭有機材グループ海外拠点>

A	欧州事務所
B	タイ事務所

海外子会社	
C	アサヒ/アメリカ, I N C
D	旭有機材商貿(上海)有限公司
E	旭有機材樹脂(南通)有限公司
F	旭有機材閥門設備(上海)有限公司
G	アサヒ・イマテリアルズ Pvt.,Ltd.



2. 環境・安全への取り組み ①

「環境・安全」とは環境保全・労働安全衛生・健康保持増進・保安防災・製品安全などの総称で、製品の開発、製造、販売、および廃棄物の処理に至るあらゆる企業活動において、これらにかかわる問題の発生を未然に防止するとともに、問題が発生した場合に適切に対応することを目的として活動を行っています。

＜「環境・安全」に関する経営方針＞

旭有機材グループでは「環境・安全に関する経営方針」を制定しています。

環境・安全に関する経営方針

理 念

当社は環境保全・労働安全衛生・保安防災および製品安全を、経営の最重要課題のひとつとして捉え、常に人や環境に優しい製品を開発、生産ならびに提供することを使命と認識し、事業活動を通して地球環境の保全と安全・衛生の確保に努めます。

方 針

環境保全と安全確保は事業活動の基本である。

1. 環境保全活動の推進

製品に関わるすべての事業活動を通して環境保全に貢献します。

2. 安全衛生活動の推進

安全教育や設備安全化および安全衛生管理を通して、労働災害の防止を図ります。

3. 健康の保持と増進

快適な職場環境の実現に努め、健康の保持と増進を図ります。

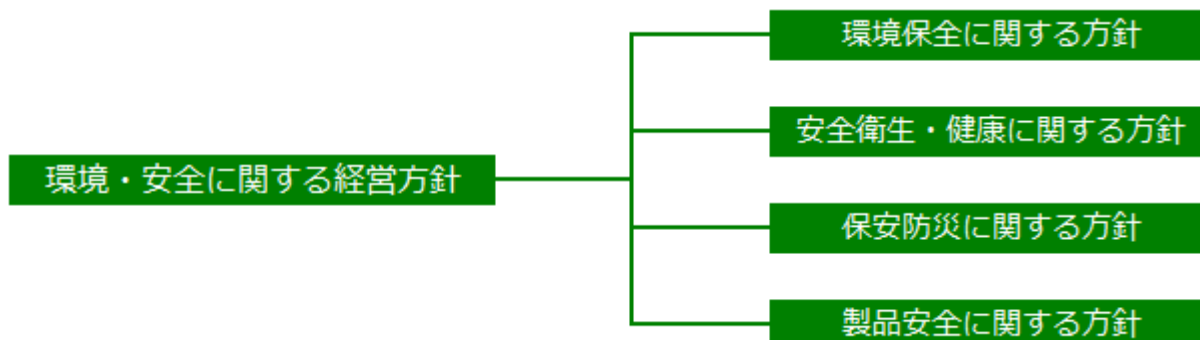
4. 保安防災活動の推進

安定操業の維持と保安防災の向上に努め、従業員と地域社会の安全を確保します。

5. 製品安全の確保

製品の開発から廃棄に至るすべての段階において、技術向上と製品管理を徹底し、製品の安全性を確保します。

この「環境・安全に関する経営方針」のもとに、環境・安全の構成要素ごとにさらに方針を制定し、理念の実現をめざして日常的に活動を行っております。



2. 環境・安全への取り組み ②

＜環境・安全に関する重点課題＞

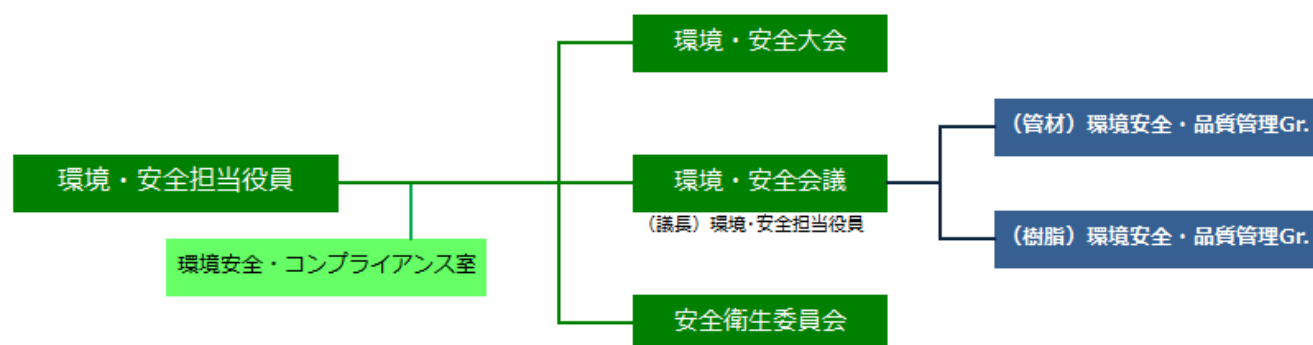
旭有機材グループでは、「環境・安全に関する経営方針」のもとに、以下の項目を2013～2015年度の重点課題として活動を推進しております。

【環境・安全管理に関する重点課題】

	2013年度～2015年度の重点課題
環境保全	①ゼロエミッションに向けた取り組み ②地球温暖化対策活動（エネルギー原単位とエネルギー起源CO ₂ 排出量の削減） ③環境負荷化学物質の移動量と排出量の削減 ④地域貢献活動の推進
化学物質	①生産活動における有害化学物質の適正な管理 ②化学物質による環境負荷の低減 ③製品等に含有する有害化学物質の削減または全廃
安全衛生・健康	①3S活動（整理・整頓・清掃）の推進 ②リスクアセスメントによる設備・機械の本質安全化の追求 ③管理監督者の率先垂範による自主的な安全活動の実践 ④日常的な安全活動（教育、HH・K、KYT、健康保持増進等）の推進
保安防災	①安定操業の維持のための保安防災管理のレベルの向上 ②主要拠点での事業継続計画（BCP）の構築 ③緊急時のための効果的な実地訓練の実施

＜環境・安全の社内推進体制＞

旭有機材グループでは、環境・安全担当役員のもとに「環境・安全会議」を設置し、全社の環境・安全活動を統括しています。また、環境・安全担当役員は、環境安全・コンプライアンス室が実施する環境・安全監査を指揮しています。



＜環境・安全大会＞

旭有機材では、従業員の環境・安全に対する意識を高めることを目的として、全員参加で自主的な改善活動を展開しています。

今年で10回目の大会開催となり、社長より労働災害の未然防止は、会社一丸で取り組むべき重要課題であるとの話があり、その後、お招きした外部講師より、危険物の管理と保安防災の在り方について、データを交えながら講演いただきました。



3. 環境・安全活動実績 ①

<環境・安全活動の目標と達成状況（旭有機材 単独）>

旭有機材では、環境・安全活動の目標を設定し、継続的な改善活動に取り組んでいます。

[○：達成 △：さらに取り組みが必要]

項目	2013年度の目標	2013年度の実績	自己評価	関連ページ
環境安全・化学物質管理	①産業廃棄物の削減と有効利用 - 廃棄物：16,456ト以下 - 単純処分：320ト以下 - ゼロエミッション (廃棄物総量に対する単純処分量を2.0%以下)	産業廃棄物の削減目標は、ほぼ達成できました。 - 廃棄物：16,457ト - 単純処分：308ト - 廃棄物総量に対する単純処分量:約1.9%	○	P9
	②電気・熱・貨物輸送エネルギー原単位削減 2007年度対比で6%以上の削減 [年平均1%以上]	貨物輸送エネルギー原単位は目標である6%を大きく上回り約8%減を達成	○	P9
	③電気・熱・貨物輸送エネルギー起源CO ₂ 削減 2007年度対比で6%以上の削減 [年平均1%以上]	生産量減少要因含め17%削減 (排出量：36,540ト)	○	P9
	④環境負荷化学物質の移動量と排出量の削減（PRT法） 第一種：6,200kg以下	指定化学物質を使用している製品の生産量が増加したため、7,250kgとなり、目標未達	△	P10
	⑤ダイオキシン類の排出量の削減（PRT法） 特定第一種：樹脂各工場1ng-TEQ/m³N	各工場の焙焼方法等の工夫により、削減目標を大幅に達成	○	P10
労働安全衛生・健康	①労働災害：グループ全体でゼロ	グループ全体で4件（内、休業2件）発生 災害度数率は1.86で目標未達	△	P11
	②リスク管理：グループで各リスクレベルに対するリスクの低減に努める	各リスクレベルに係る当社の状況を認識し、それらに応じた管理と対策を実施している	○	—
	③健康保持増進のためのセルフケア活動支援	「職場におけるラインケア」と題し、社外専門家による講演会を全国各地で実施	○	P12
地域との交流	①地元人材の育成	講師派遣、インターンの実施	○	P14
	②工場見学	学生を対象とした工場見学の実施	○	P14
	③植樹によるCO ₂ 吸収の取り組み	「ゆうきの森」植樹（延岡地区）	○	P14

3. 環境・安全活動実績 ②

<産業廃棄物の削減と有効利用>

産業廃棄物の排出量の削減と発生した産業廃棄物は有効利用に努め、単純（埋立）処分される廃棄物の削減を推進しています。



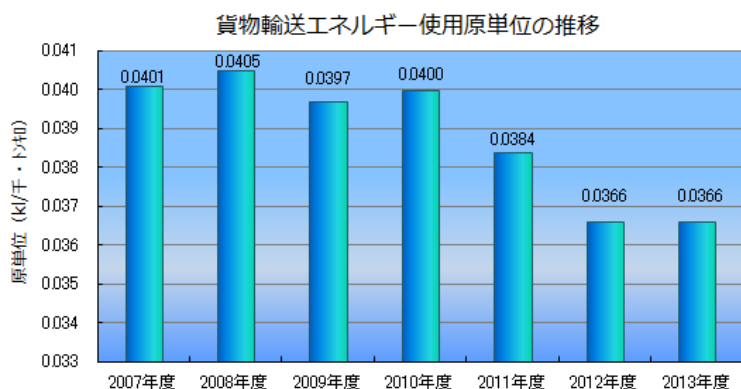
2007年度の実績を基準として2013年度は、

- ◎ 産業廃棄物の排出量：29%の削減
- ◎ 単純処分される廃棄物の数量：76%の削減

また、排出される産業廃棄物の数量に占める単純処分される産業廃棄物の数量の割合は、2013年度は1.9%となりました。

<貨物輸送エネルギー使用原単位の削減>

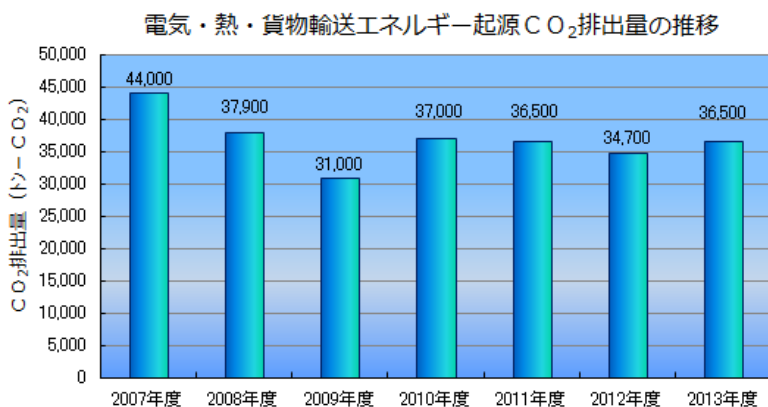
当社は省エネルギー法の「特定荷主」に指定されており、省エネの一環として貨物輸送エネルギーに関わる原単位を中長期的に年平均1%以上削減することに取組んでいます。



2013年度の原単位は0.0366 (kl/千・トン)となり、2007年度の実績を基準として、約8%の削減を達成しました。

<電気・熱・貨物輸送エネルギー起源CO₂排出量の削減>

全社の電気・熱・貨物輸送エネルギー起源CO₂排出量は、次のグラフのとおりです。

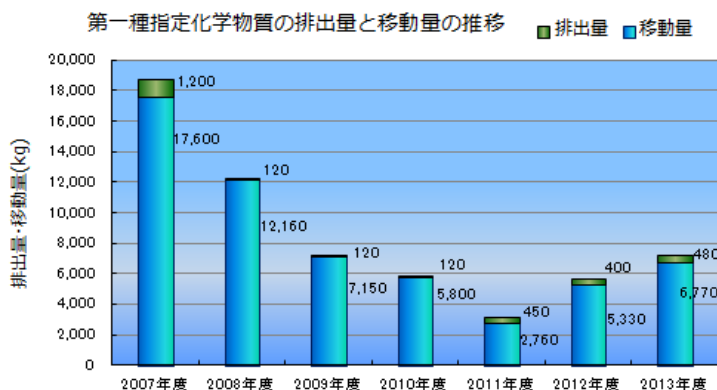


2013年度のCO₂排出量は36,540トンとなりました。前年度よりは若干の減少ではあるものの、基準である2007年度実績と比べ約17%の減少となりました。

3. 環境・安全実績 ③

<指定化学物質の移動量・排出量の削減>

2013年度は排出量400kg、移動量5,330kgとなりました。



P R T R法^{※①}の改正により、対象となる化学物質が増えたものの、2007年度実績に比べ70%削減しました。

各工場での対象となる指定化学物質は下表に記載しています。

※① P R T R法：特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律（化管法）

単位：ng-TEQ/m3N

	目標値	2012年度実績
愛知工場	1.0	0.000059
栃木工場	1.0	0
広島工場	1.0	0.028

また、特定第一種指定化学物質である「ダイオキシン」の2013年度の各工場における排出濃度の実績値は、2012年度に引き続き、目標を大幅に上回る成果がありました。

焙焼炉の温度設定や、焙焼方法の検討などを継続することにより、ダイオキシンの発生を低く抑えています。

<P R T R法による化学物質の適正管理>

旭有機材は、以下の化学物質の排出量・移動量を管理するとともに、計画的な削減に取り組んでいます。

製造所・工場	P R T R法により管理している物質
管 材 製 造 所	有機スズ化合物・鉛及びその化合物・アンチモン及びその化合物・ヘキサメチレンテトラミン・フェノール・ジシクロペンタジエン・メチレンビス（4，1－フェニレン）＝ジイソシアネート
愛 知 工 場	亜鉛の水溶性化合物・ビスフェノール A・クメン・クレゾール・1,4 ジオキサン・ヘキサメチレンテトラミン・トリエチルアミン・1,2,4 トリメチルベンゼン・1,2,5 トリメチルベンゼン・ナフタレン・フェノール・ホルムアルデヒド・メチルナフタレン・メチレンビス（4，1－フェニレン）＝ジイソシアネート・リン酸トリノルマルブチル・エチレングリコール・DMF・ダイオキシン類
栃 木 工 場	ヘキサメチレンテトラミン・亜鉛の水溶性化合物・有機スズ化合物・ダイオキシン類
広 島 工 場	ヘキサメチレンテトラミン・ダイオキシン類

<P C B^{※②}廃棄物の適正処理 >

P C B廃棄物処理の法定期限は2016年7月までに対し、当社延岡製造所では専門業者による適正処理が完了し、順番待ちとなっている愛知・栃木工場・ドリコ(株)では保管場所を設け、専用容器にて適切に保管管理しています。愛知工場・栃木工場では、高圧用コンデンサや安定器などが保管されており、2014年度中に専門業者による処理を予定しています。

※② P C B：“Polychlorinated Biphenyls”の略で、難分解性かつ、人の健康

および生活環境に被害を及ぼすおそれがあるため、日本では、製造・使用が実質的に禁止されています。



栃木工場での保管状態

4. 労働安全衛生と社員の健康 ①

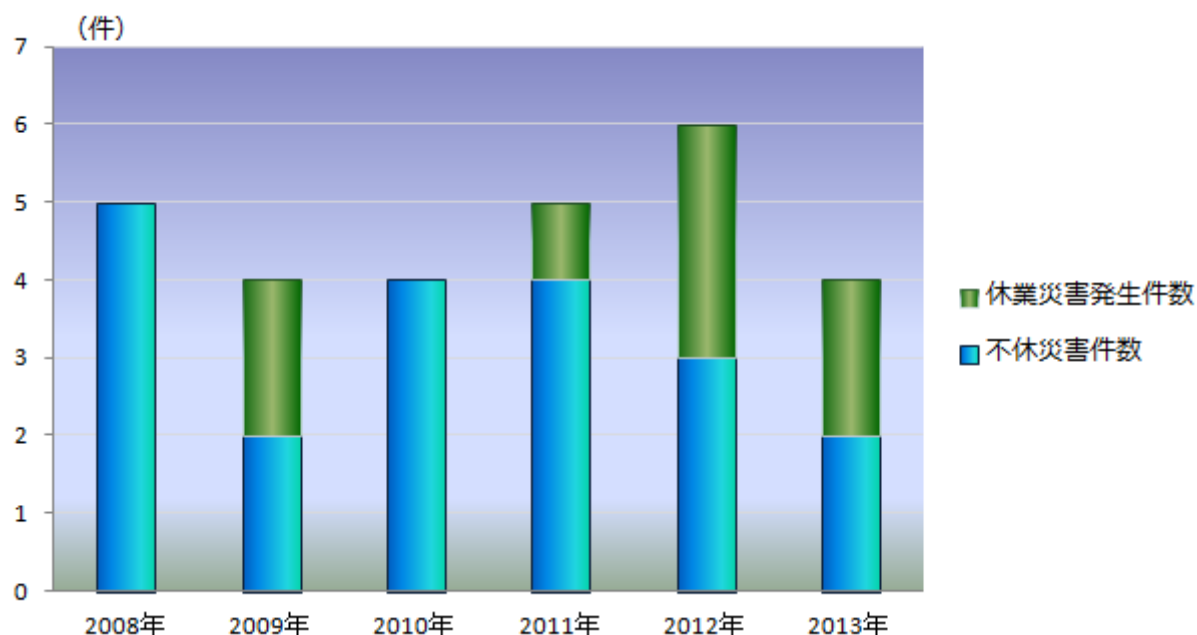
<旭有機材グループの労働災害発生件数>

労働災害撲滅に向けて、旭有機材グループでは、管理監督者の職場安全衛生活動への積極的関与を通じて、グループ従業員全員で、ゼロ災活動の推進を図っております。

◇安全衛生の集計期間（1年）＝1月1日～12月31日

		実 績 値					
		2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
休業災害発生件数	単 独	0	0	0	1	2	1
	グループ会社	0	2	0	0	1	1
	連 結 合 計	0	2	0	1	3	2
不 休 災 害 件 数	単 独	4	0	3	3	2	1
	グループ会社	1	2	1	1	1	1
	連 結 合 計	5	2	4	4	3	2
休 業 災 害 度 数 率	単 独	0	0	0	0.63	1.25	0.66
	連 結 合 計	0	0.90	0	0.35	1.34	0.93
	(参考)製造業平均	—	—	(0.98)	(1.05)	(1.00)	(0.94)
全 災 害 度 数 率	単 独	2.48	0	1.97	2.53	2.50	1.31
	連 結 合 計	2.49	1.91	1.81	1.74	2.69	1.86

【旭有機材グループ労働災害の推移】



【労働災害撲滅に向けた取り組み】

旭有機材グループでは、3S活動、KYT活動、HH・K報告をはじめ、安全衛生活動に積極的に取り組んでいます。また、管理監督者が率先して職場安全衛生活動に関与することを通じて、ゼロ災活動の推進を図っています。

4. 労働安全衛生と社員の健康 ②

<旭有機材グループのメンタルヘルス活動>

昨今企業が抱える問題の一つとなっているメンタルヘルスについて、メンタル不全の予防と早期発見、またその対処法など、社員の知識習得を目的として、定期的に本分野の権威である大学病院の先生を外部講師として招き、全国主要地区にて講演会を実施しています。

2013年度は「職場におけるラインケア」について、部下や同僚の変調にどう気付き、対処するかなど、ロールプレイを交えながら事例検討し、講演が進められました。



(2013年度実績)

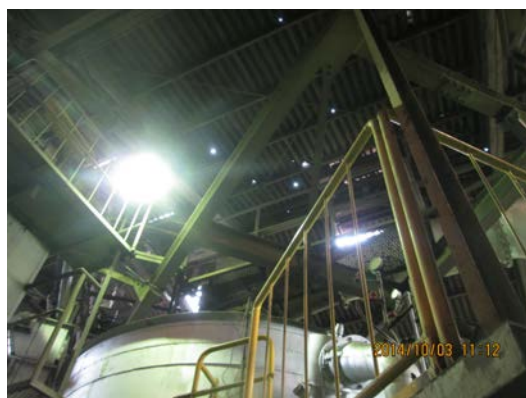
東京地区	10月	2回
愛知地区	11月	2回
宮崎地区	12月	2回

<経営者による査察、専門スタッフによる監査（国内全工場）>

2013年11月に「緊急通達、過去労災対策、H.H.K 提案を確実に実施しているか」をテーマに国内の全工場を社長が査察しました。

環境面と安全面から厳しい目でチェックし、不適合が見つければ速やかに是正を行っています。

また、事業部長も同様に定期的な環境安全査察を実施しています。



5. 品質管理・製品安全への取り組み

<製品安全に関する基本方針>

旭有機材グループは、経営理念のひとつに「お客様の信頼が命です」を掲げ、お客様に信頼され、満足していただける製品・サービスの提供に努めています。より優れた、より安全な製品・サービスの提供を通じて、人びとの幸福と社会の発展に寄与することをめざしています。

製品安全に関する基本方針

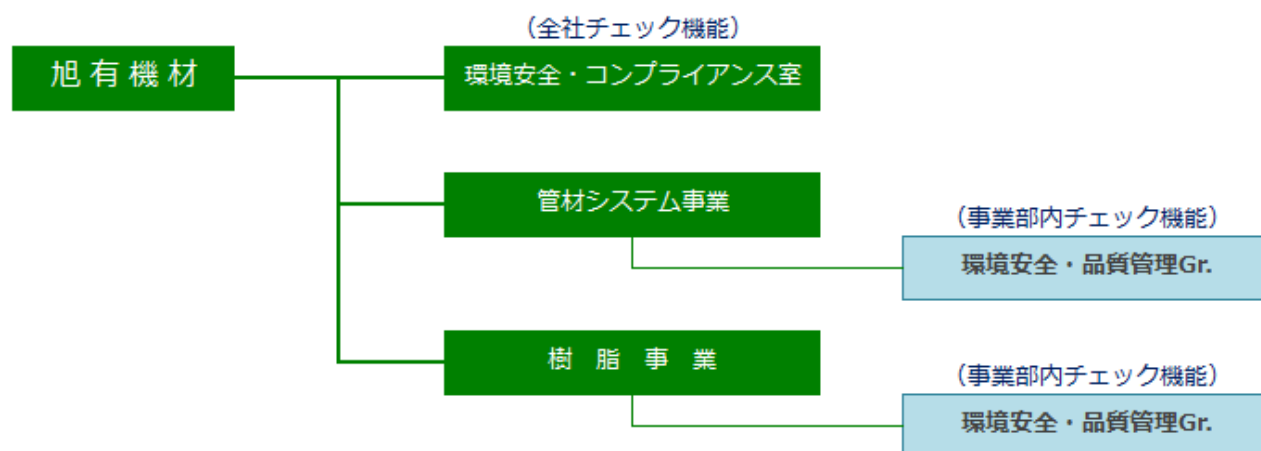
顧客の信頼と満足が得られる、より優れた、より安全な製品の創出を通じて、人間の幸福と社会の発展に寄与する。

- 一、顧客の立場で製品を開発すること
- 一、技術を錬磨し、品質管理を徹底して、ものづくりをすること
- 一、製品を正しく安全に使っていただく営業を実践すること
- 一、製品がその効用を終え、廃棄されるまでのすべての段階における環境と安全に与える影響を配慮すること

<内部品質監査によるチェック>

旭有機材では、両事業部の品質マネジメントシステムの運用状況を評価しパフォーマンス向上につなげるために、専門部署による全社的監査を実施しています。監査重点事項を毎年定め、改善すべき事項については是正指示を行い、対策をとっています。

また、両事業部においては事業部単位でISO9001を運用し、それぞれ内部監査を実施しています。



6. 地域・社会への貢献

旭有機材では、「社会と共に歩みます」の経営理念のもとに、積極的に地域との交流活動を行っています。

<講師派遣による講演会実施>

地域を育む社会貢献の一環として、社員による出前授業を行っています。小学校から大学まで幅広い世代を対象にした「夢のあるキャリアビジョンの描き方」、社会人を対象にした「採用現場の肌感覚」、当社での実例を基にしたものなど、幅広いテーマで講演を実施しています。



<インターンシップ受け入れ>

子供たちの職業観の涵養を目的に、インターンシップ・職業体験の受け入れを行っています。モノ作りの製造現場を体験してもらうことで、教室だけでは得られない学びを提供しています。学生だけでなく、教師の見識を広げることを目的に文科省が実施している「教師 10 年目研修」なども受け入れています。



<工場見学の実施>

従来は学生中心の社会見学でしたが、近年は新興国の企業リーダーによる視察、障害者が活躍できる就労現場の視察など、幅広い層を対象とした工場を実施しています。

また、社員の働きがいと家庭の充実を目的に、従業員の家族向け工場見学も実施しております。



<第7回「ゆうきの森」植樹活動> 4月13日開催

旭有機材では、宮崎県が取組んでいます「企業の森林づくり」に参加し、2008年4月から毎年、延岡市北方町にて「ゆうきの森」の植樹活動を行っています。

平成25年度の森林整備による二酸化炭素の吸収量は、 $9.42 \text{ t (Kg)} - \text{CO}_2/\text{年}$ でした。

面積： 3.00 ha (下刈2回)
(広葉樹 2.4 ha 、スギ 0.2 ha 、ヒノキ 0.4 ha)

(別紙様式第2号)

宮崎県二酸化炭素森林吸収量認証書

旭有機材工業株式会社
代表取締役社長執行役員 藤原 孝二 様

平成26年4月25日付けで申請のあった森林整備による二酸化炭素吸収量について、下記のとおりであることを認証します。



平成25年度吸収量 $9.42 \text{ t (kg)} - \text{CO}_2/\text{年}$

場 所：宮崎県延岡市北方町水産字山口
(「ゆうきの森」整備・保全指定対象地)

面 積： 3.00 ha (下刈2回)
(広葉樹 2.4 ha 、スギ 0.2 ha 、ヒノキ 0.4 ha)

平成26年5月2日

宮崎県知事 河野 俊朗 

◆ 編集方針

旭有機材工業株式会社が2013年度に行った諸活動のうち、企業として環境・安全にかかわる取組みについて報告します。

◆ 全体的な構成

この報告書は、環境・安全の5つの要素である「環境保全」「労働安全衛生」「健康保持増進」「保安防災」「製品安全」に、「地域社会との交流」を加えて構成しています。

◆ 対象組織範囲

旭有機材工業株式会社およびグループ会社

◆ 対象期間範囲

報告対象期間：2013年度
2013年4月から2014年3月

◆ 参考にしたガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン2013年版」

◆ 発行日

発行日：2014年12月22日

◆ 問い合わせ先

旭有機材工業株式会社
総務・人事部
〒105-6120
東京都港区浜松町2丁目4番1号
世界貿易センタービル 20階
TEL：03-3578-6001
<http://www.asahi-yukizai.co.jp>

